

第1章 交野市の成り立ち

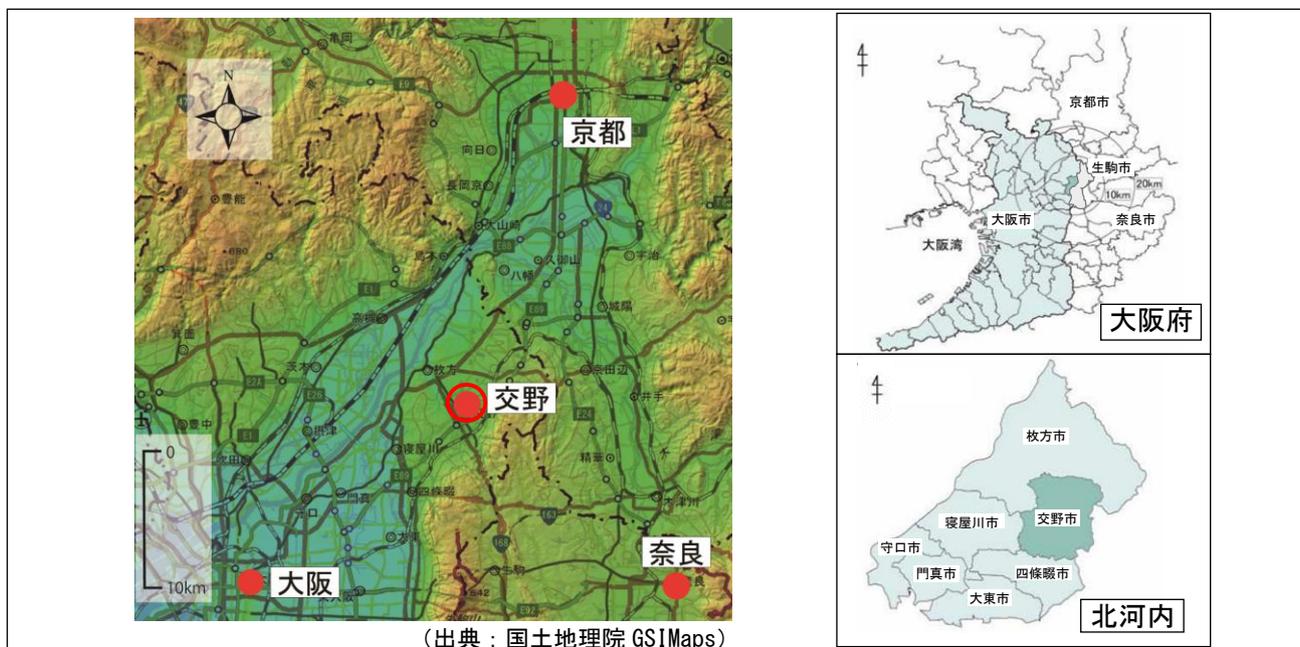
1-1. 社会的環境

(1) 位置及び面積

本市は、大阪府北東部の北河内地域内に位置します。北側を枚方市、西側を寝屋川市、南側を四條畷市、東側を奈良県生駒市に囲まれ、大阪府と奈良県の境にあります。大阪市、京都市及び奈良市を結ぶ三角形の中央付近に立地し、いずれの都市からも概ね20kmと近いことから、古来より三都の文化的な影響を受けてきました。

市域は東西約5.4km、南北約6.8kmの方形をしており、面積は約25.55km²です。現在の市域が確定したのは、星田村が交野町に合併した昭和30(1955)年4月1日のことです。

江戸時代から続く郡津村、倉治村、私部村、寺村、傍示村、森村、私市村、星田村の8か村が3か村に統合された時に、現在の交野市の区長制度が成立しました。昭和46(1971)年の交野市制施行時には18地区が置かれ、現在では24地区になりました。



(出典：国土地理院 GSIMaps)

図：位置図

| 旧村名 | 対応地区名 (対応小学校区) |
|-----|---|
| 郡津村 | 幾野・郡津・松塚地区 (郡津小学校区) 及び梅が枝・駅前住宅地区等 (交野みらい小学校区) |
| 倉治村 | 倉治地区 (倉治小学校区) |
| 私部村 | 私部・行殿・柴野・向井田・青山 (交野みらい小学校区) 及び天野が原町北半 (岩船小学校区の一部) |
| 寺村 | 寺地区 (岩船小学校区の一部) |
| 傍示村 | 傍示地区 (岩船小学校区の一部) |
| 森村 | 森地区 (岩船小学校区の一部) |
| 私市村 | 私市・私市山手地区等 (私市小学校区) 及び天野が原町南半 (岩船小学校区の一部) |
| 星田村 | 藤が尾地区等 (藤が尾小学校区)、妙見坂・妙見東地区等 (妙見坂小学校区)、星田・南星台地区 (星田小学校区)、星田西・星田山手地区等 (旭小学校区) |

図：旧8か村地区割 (江戸時代) と対応地区

(2) 人口

①人口と世帯数の推移

交野市の前身にあたる交野町が誕生した昭和30(1955)年当時、人口はわずか11,674人でしたが、市外からの人口流入によって、昭和45(1970)年には33,701人(国勢調査)と大幅に増加しました。

その後も長期的に増加してきた人口は、平成12(2000)年頃から横ばいとなり、平成22(2010)年の77,686人をピークに減少に転じました。

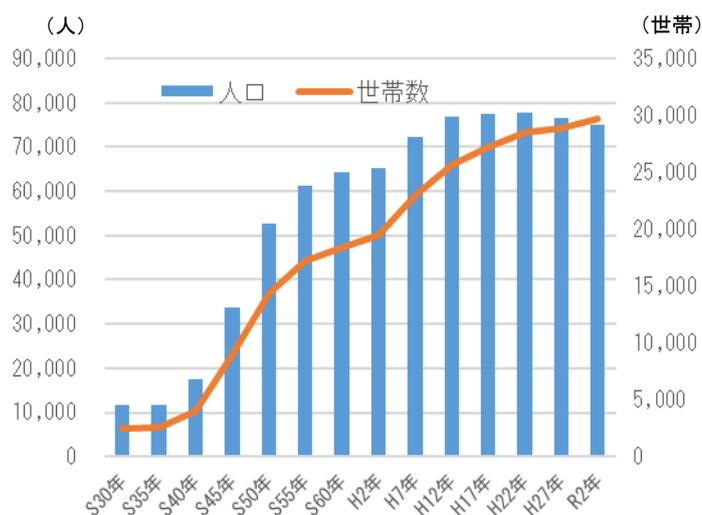
令和2(2020)年の人口は75,033人(国勢調査)です。旧集落の町字別人口総数・世帯数における平成7(1995)年～27(2015)年の20年間の推移をみると私市、倉治、郡津、森北、森南、私部、星田で増加しています。

一方、減少している地域の中で、傍示の人口総数、世帯数はほかの地域と比較して極めて少なく、さらなる減少は地域コミュニティ等の維持・継承に深刻な影響を与えることが懸念されます。

平成22(2010)～27(2015)年の年齢5歳階級別の人口移動の転入・転出人口の年齢構成をみると「35～39歳」での転入超過が多く、住宅を求めて移動した年代とみられます。

一方、転出が多い世代は「15～19歳」及び「20～24歳」で、特に男性の転出超過が多いことから進学や仕事による移動がある年代とみられます。

また、年齢別人口の構成では、平成7(1995)年の生産年齢人口(15～64歳)が53,442人であったのが、平成27(2015)年には45,681人まで減少し、年少人口(15歳未満)は、11,685人から10,623人に減少しています。これに対して、老年人口(65歳以上)は6,943人から20,048人まで増加し、総人口に占める老年人口割合(高齢化率)は9.6%から26.3%まで上昇しています。



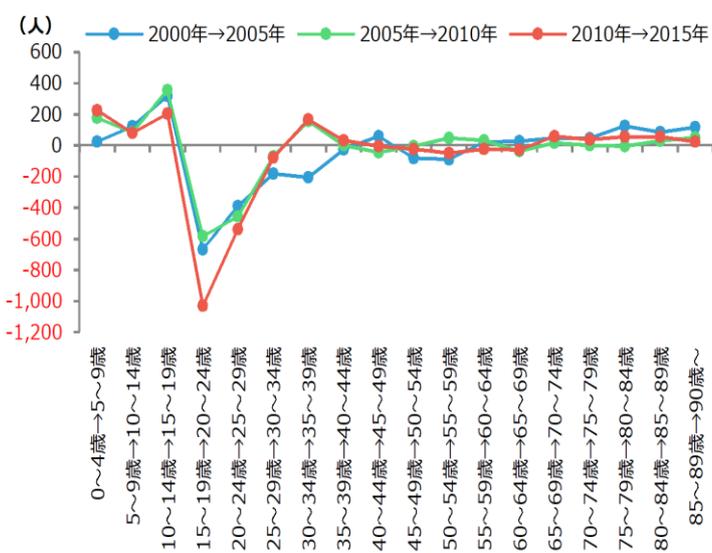
(出典：国勢調査)

図：人口と世帯数の推移

表：町字別人口総数・世帯数の推移

| 町字 | 人口総数 | | | 人口世帯数 | | |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | H7 | H17 | H27 | H7 | H17 | H27 |
| 私市 | 4,024 | 4,853 | 5,176 | 1,251 | 1,642 | 1,870 |
| 倉治 | 6,070 | 6,512 | 6,748 | 1,840 | 2,274 | 2,493 |
| 郡津 | 5,400 | 6,135 | 6,599 | 1,735 | 2,147 | 2,455 |
| 寺 | 1,186 | 1,226 | 1,163 | 282 | 329 | 361 |
| 傍示 | 21 | 15 | 10 | 5 | 5 | 5 |
| 森北 | 315 | 874 | 878 | 88 | 320 | 372 |
| 森南 | 1,085 | 1,203 | 1,329 | 352 | 433 | 527 |
| 私部 | 7,490 | 8,115 | 7,753 | 2,391 | 2,774 | 2,910 |
| 星田 | 7,940 | 9,210 | 9,182 | 2,497 | 3,261 | 3,472 |

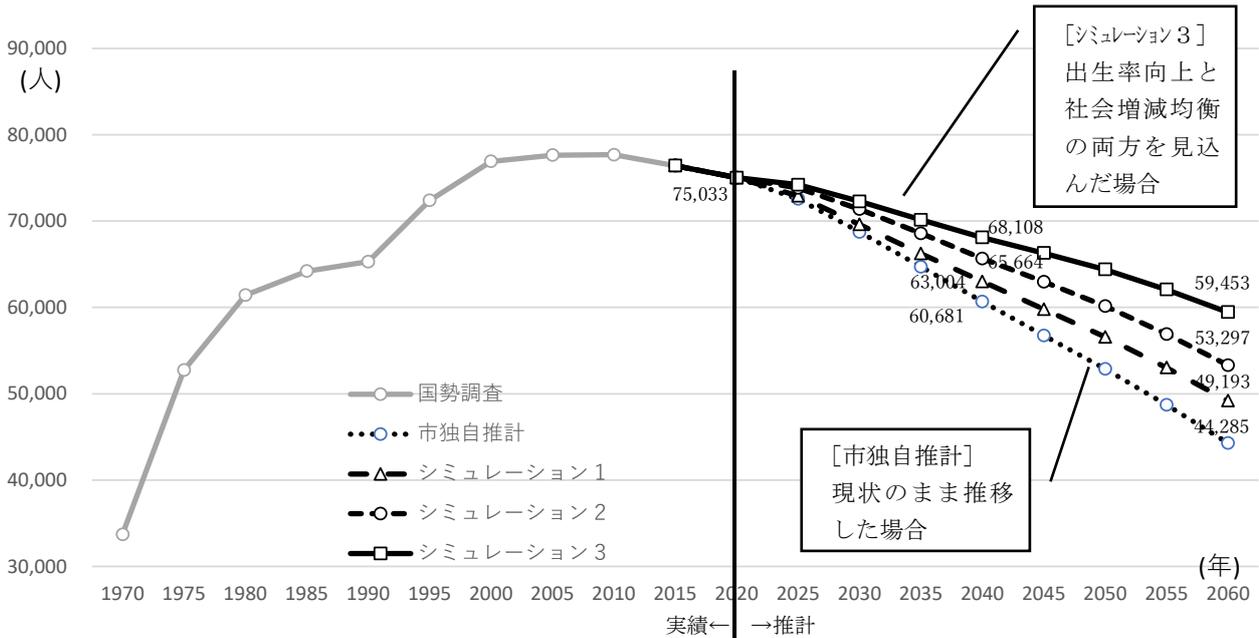
(出典：各年国勢調査小地域集計)



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

(出典：RESAS 経済産業)

図：年齢5歳階級別の人口移動



図：将来人口の推計

《シミュレーション1》出生率が向上した場合、《シミュレーション2》社会増減が均衡した場合、《シミュレーション3》出生率が向上し、社会増減が均衡した場合を指します。なお、「出生率の向上」とは2020年1.42→2030年1.63→2040年1.84、「社会増減の均衡」とは、「継続的な転出超過に陥らない状態」を想定しています。

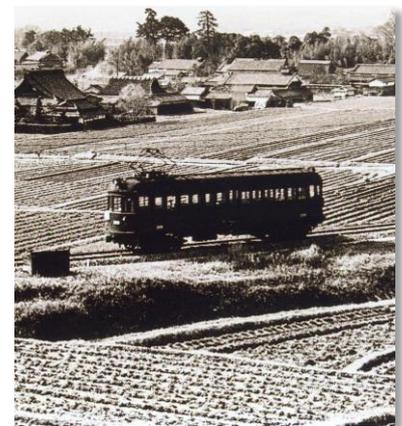
②目標人口

現状のまま推移すると、将来の人口は、令和42(2060)年に44,285人まで減少すると推計されています。令和4(2022)年3月に改訂した『交野市人口ビジョン』では、長期的に人口減少を食い止め、バランスのとれた人口構成とするために、出生率の向上と社会増減の均衡のいずれもが必要とされます。令和22(2040)年に68,108人、令和42(2060)年に59,453人を目指すとしています。

(3) 交通網

道路は、第二京阪道路及び国道168号の広域幹線道路、大阪府道736号交野久御山線、大阪府道7号枚方大和郡山線、大阪府道18号枚方交野寝屋川線、大阪府道20号枚方富田林泉佐野線、大阪府道154号私市太秦線の幹線道路等によって他地域とのネットワークが形成されています。

鉄道については、JR学研都市線(片町線)と京阪電鉄交野線の2路線があり、JR河内磐船駅や星田駅は快速停車駅で、大阪都心の北新地駅まで約27分です。また、JR河内磐船駅から大阪市内の京橋駅まで約20分、京阪交野市駅から枚方市駅を経て京阪京橋駅まで約30分弱の距離にあります。これらの鉄道によって都心へのアクセスが良いことから、本市はベッドタウンとなっています。



昭和33年頃の京阪電鉄交野線

表：鉄道路線と駅

| 路線名 | 起点及び終点 | 開業時 | 開業 | 設置駅 |
|---------|----------|---------|-------|-------------------|
| JR学研都市線 | 木津駅～京橋駅 | 旧関西鉄道 | 明治31年 | 河内磐船駅、星田駅 |
| 京阪電鉄交野線 | 枚方市駅～私市駅 | 旧信貴生駒電鉄 | 昭和3年 | 郡津駅、交野市駅、河内森駅、私市駅 |

(4) 土地利用

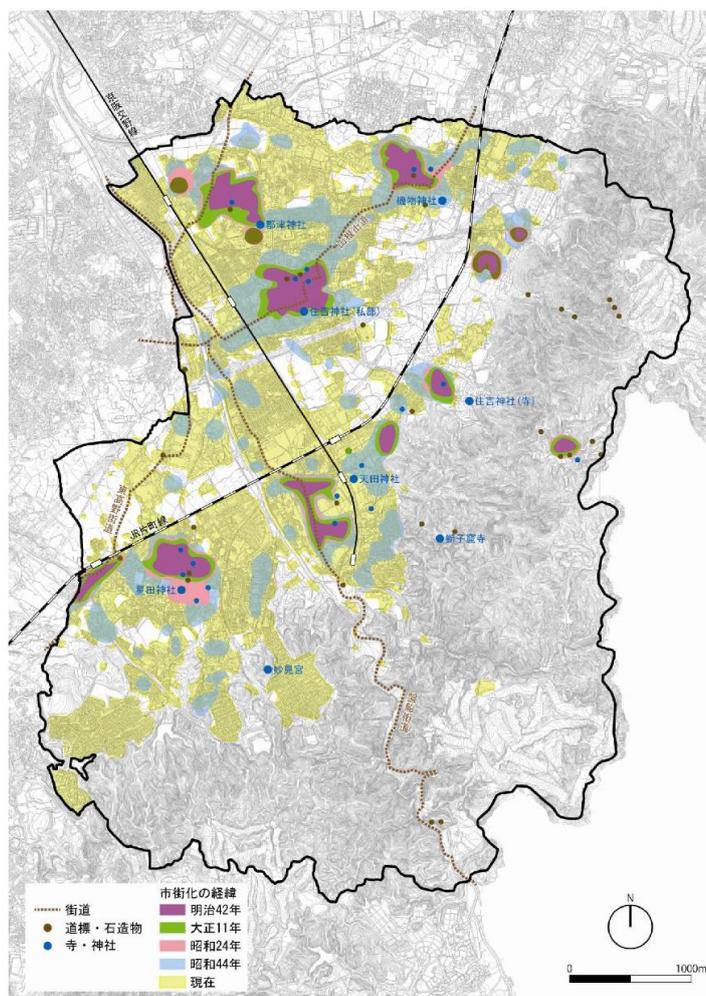
本市の土地利用をみると、市域には元来^{でんえん}田園が広がり、人々は集落とその周りを中心にして暮らしていました。

明治期に鉄道が開通してからも、大正・昭和初期にかけて大きな変化はありませんでしたが、戦後になると田畑が宅地となり市街化が進み、昭和 29(1954)年に始まった高度経済成長期には山麓でも大規模な住宅地開発が始まりました。こうして古くからの集落と新たに計画された住宅地、市街地とが共存する都市となっています。

現在の土地利用は、山林と原野・牧野（ゴルフ場を含む）を合わせ、市域の約半分を山地が占めています。平地部の約 68%が市街化していますが、農地や普通緑地が広く分布し、今なおゆとりある空間を残しています。

ただし、年々宅地化が進み、住宅地は昭和 53(1978)年には 17.6%、平成 22(2010)年には 26.6%となり、農地は昭和 53(1978)年の 21.3%から平成 22(2010)年には 13.2%と減少しています。

市域面積 2,555ha のうち、現在の市街化区域は約 920ha (36%)、市街化調整区域は約 1,635ha (64%) となっています。



(出典：交野市景観まちづくり)

図：市街化の過程

(5) 産業

①農業

平成 30(2018)年の年齢階級別農業就業者比率は、65 歳以上が 60%を占め高齢化が進んでいます。また、農業経営者の平均年齢は 69 歳で全国平均 66 歳、大阪府平均 67 歳を上回っています。

経営耕地面積は平成 17(2005)年の 122ha から平成 27(2015)年には 100ha に減少しています。

農業産出額は、平成 26(2014)～29(2017)年にかけて増加しますが、平成 30(2018)年は減少しています。その内訳は、米は 19～17 千万円の微減、果実は 10～13 千万円の微増、野菜は 3～4 千万円とほぼ横ばいとなっています。(出典：RESAS 産業特性(農業) 大阪府交野市) 交野市産の農産物の地産地消を進めるため、学校給食への食材の出荷や農業生産連合会による直売所の開設などを行っています。

交野市を代表する農産物には神宮寺ぶどうがあります。戦前は桃の栽培が盛んでしたが、太平洋戦争の食料品不足に伴い、桃木は掘り起こされ^{かんしょ}甘藷畑に変わりました。戦後、元の桃栽培に戻そうとしましたが、収穫不良のため一部で続くのみとなり、代わってぶどうの栽培が普及しました。

②商業

小売業の事業所数の推移をみると、平成6(1994)～24(2012)年まで事業所数は減少しますが、その後、平成28(2016)年までほぼ横ばいとなっています。従業者数は平成9(1997)～14(2002)年をピークに増加から減少に転じ、平成24(2012)年以降は横ばいで、平成28(2016)年は2,500人前後で推移しています。年間商品販売額は平成9(1997)年から減少しますが、平成24(2012)年以降は増加に転じ、平成28(2016)年には4,268千万円となっています。(出典：RESAS 産業特性(小売業) 大阪府交野市)

現在は、交野市商業連合会(交野中央商店会・交野駅前商店会・星田駅前商店会・郡津商工会・郡津駅前商店会・広域商店会)によって、「交野ショーレンバル」を開催するなど商業活性化のための取組みが行われています。

③製造業

江戸時代から続く交野の酒造業2社や大正時代から続く歯ブラシ工場が旧集落の縁辺部に位置し、現在も製造を行っています。一方、織機やタオルを製作する工場も昭和40(1965)年頃まで旧集落に接して操業していましたが、繊維産業の衰退や市街地の拡大に伴い廃業しました。その後、新たに幾野工業地域や星田北地域に工場が建てられました。

平成30(2018)年の製造品出荷額は10,224千万円で、化学工業、生産用機械、鉄鋼業、金属製品製造業等が上位を占めています。(出典：RESAS 産業特性(製造業) 大阪府交野市)

交野市工業会では産業活性化を通じて地域への貢献の取組みなどが行われています。特に、平成27(2015)年から平成30(2018)年に行われた「交野ものづくり工場巡り」では交野市商業連合会、交野市農業生産連合会、交野市星のまち観光協会などの協力を得て、工場以外にも農産物販売や名所旧跡を巡るなどの取組みが行われました。

④観光

本市の観光客数は、平成23(2011)年の659,584人から、平成29(2017)年に1,157,444人まで上昇しますが、コロナ禍のため令和2(2020)年には1,051,580人に減少しました。令和2年度1位の「大阪府民の森 ほしだ園地」の883,562人、2位の「府民の森 くらんど園地」の73,116人、3位の「交野市立いわふね自然の森スポーツ・文化センター」の39,701人、4位の「大阪市立大学理学部附属植物園」(現・大阪公立大学附属植物園)38,055人と、自然に関するスポットが観光客数の大半を占めます。一方で、磐船神社、獅子窟寺、交野市立教育文化会館、北田家住宅、八葉蓮華寺の観光客数は減少しています。

表：交野市の主要な観光施設の観光客数の推移

(単位：人)

| | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | R2 |
|-------------------------|---------|---------|---------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 大阪府民の森 ほしだ園地 | 418,564 | 411,285 | 426,173 | 598,063 | 753,567 | 726,208 | 876,087 | 861,224 | 846,545 | 883,562 |
| 大阪府民の森 くらんど園地 | 106,999 | 127,027 | 114,275 | 114,370 | 110,431 | 108,770 | 102,646 | 82,664 | 93,707 | 73,116 |
| 交野市立いわふね自然の森スポーツ・文化センター | 76,906 | 85,623 | 83,131 | 92,238 | 110,341 | 112,042 | 110,552 | 110,978 | 90,564 | 39,701 |
| 大阪市立大学理学部附属植物園 | 32,148 | 33,111 | 42,799 | 43,012 | 35,159 | 34,424 | 41,940 | 50,045 | 43,518 | 38,055 |
| 磐船神社 | | 0 | | | 6,000 | 6,681 | 7,890 | 7,762 | 8,203 | 6,154 |
| 獅子窟寺 | 5,500 | 5,050 | | 6,100 | 5,600 | 1,000 | 2,050 | 1,350 | 1,350 | 2,850 |
| 交野神宮寺ぶどう狩り | 3,509 | 3,407 | 3,202 | 3,202 | 3,325 | 3,500 | 3,600 | 3,500 | 2,741 | 2,741 |
| 交野市立教育文化会館 歴史民俗資料展示室 | 5,220 | 5,043 | 5,065 | 5,169 | 5,700 | 6,167 | 5,243 | 6,022 | 4,119 | 2,650 |
| 交野市立いきものふれあいセンター | 10,487 | 9,575 | 9,326 | 9,257 | 9,374 | 7,788 | 7,363 | 4,533 | 4,029 | 2,644 |
| 北田家住宅 | 123 | 152 | 47 | 82 | 48 | 69 | 57 | 12 | 32 | 97 |
| 八葉蓮華寺 | 128 | 412 | 10 | 119 | 84 | 31 | 16 | 12 | 25 | 10 |
| 合計 | 659,584 | 680,685 | 684,028 | 871,612 | 1,039,629 | 1,006,680 | 1,157,444 | 1,128,102 | 1,094,833 | 1,051,580 |

(6) 法規制

生駒山系に位置する交野市の山地等には下記に示す地域制緑地が指定されています。

① 金剛生駒紀泉国定公園（自然公園法）

すぐれた自然風景地の保護と、その適正な利用増進を図るために指定されるもので、山地部の南側部分を中心に 797ha が指定されています。

② 近郊緑地保全区域（近畿圏の保全区域の整備に関する法律）

無秩序な市街化防止、住民の健全な心身の保持増進、災害・公害の防止を図るため、山地部のほぼ全域の 1,455ha を指定しています。

土砂の流出防止、公衆の保健を目的に一定の制限、義務が課される森林として 4 区域合計 290ha が指定されています。

③ 地域森林計画対象民有林（森林法）

森林の適正な保全利用を図るために、961ha の民有林が地域森林計画の対象になっています。森林整備の方向は、府民の森の充実とあわせて防災・景観に配慮した保全を図ることとしています。

④ 生活環境保全緑地（交野市自然環境の保全等に関する条例）

古くからの集落などに多くみられる屋敷林、社寺林をはじめとする樹林・樹林地は、住宅地としての役割を担っています。しかし、このような市街地に残された樹林地も宅地化などが進む中で減少傾向にあります。特に貴重な樹木（古木）・樹林のうち 16 か所・約 9.4ha について、平成 2（1990）年から本市の自然環境保全緑地に指定し、保全をはかっています。そのほかは、法的指定はされていませんが、社寺林を中心とした貴重な樹木・樹林があります。



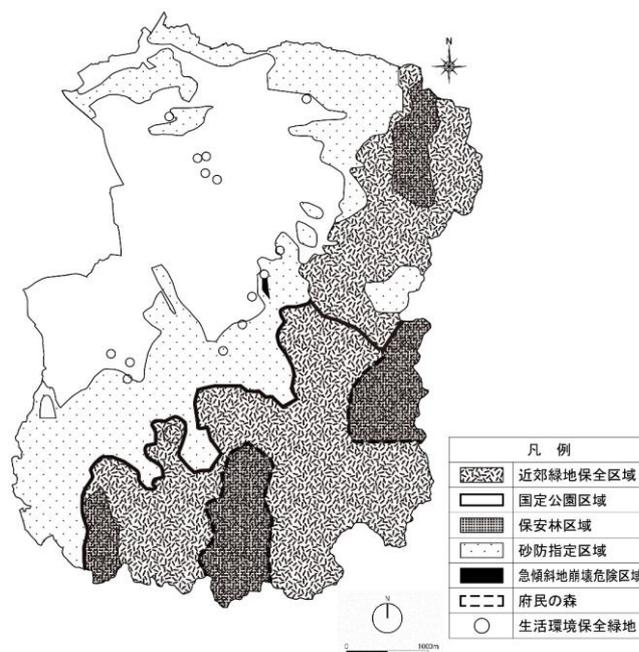
市指定樹林（機物神社）

⑤ 生産緑地地区（生産緑地法・都市計画法）

市街化区域内農地の保全による良好な都市環境の形成を図るために、都市計画に定められた地区として、62.20ha（令和元(2019)年 12 月 23 日時点）を指定しています。

⑥ 農空間保全地域（大阪府都市農業の推進及び農空間の保全と活用に関する条例）

農地を中心とした農空間は農産物の生産だけでなく、洪水などの災害を抑制する防災機能、ヒートアイランド現象の緩和、美しい景観の形成など、様々な公益的役割を果たしています。これらの農空間の保全と活用を進めるため、179.87ha の農地等が農空間保全地域に指定されています。



■保安林区域（森林法）

（出典：大阪府 HP 農空間保全地域の指定状況
令和 3 年 9 月 15 日時点より更新作成）

図：法律による緑地の指定状況（平成 22 年）

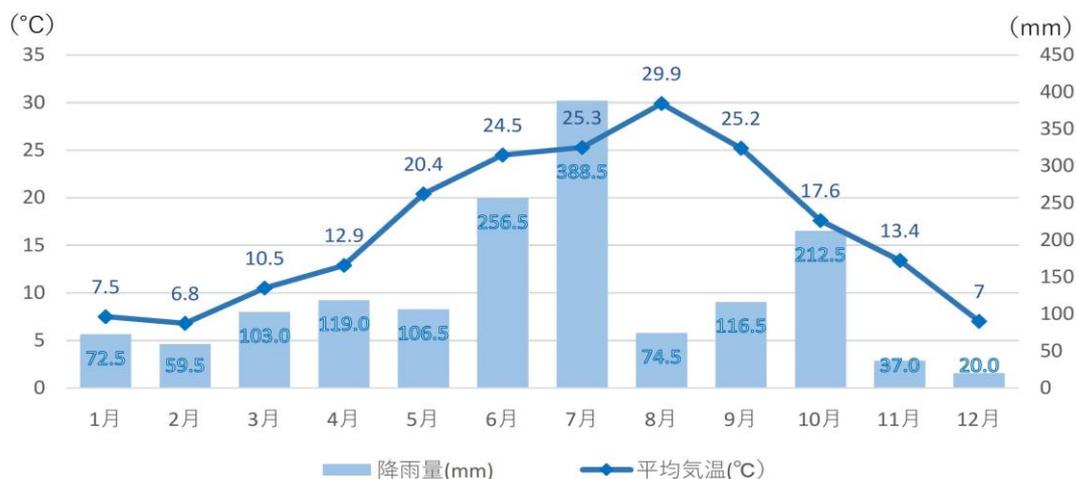
1-2. 自然環境

(1) 気候

本市は、生駒山系を背にする大阪府北東部に位置し、瀬戸内気候に属している関係から気候は概ね温暖で、年平均の気温は16℃前後です。ときおり強い季節風が吹くことがあります。概ね北東ないし西よりの風が吹き、年平均風速は2m/s前後と穏やかです。

年間降水量はアメダス(枚方)の昭和51(1976)年から令和元(2019)年の記録によりますと、当初は1,600mm強でありましたが、近年では1,800mmを超える年もでてきました。1年間あたりの降水量が最も多かった年は平成元(1989)年の1,835mmとなっています。近年でも平成25(2013)年に1,743.5mm、平成27(2015)年に1,683.5mmを観測するとともに、平成23(2011)年以降、平均1,500mm以上と一定して多い降水量を記録しています。

また、アメダス(枚方)の記録によりますと、1日あたりの最多降水量は平成30(2018)年の183.5mm、平成24(2012)年の91.0mmです。交野市における1時間あたりの最多降水量は、妙見東観測局で平成24(2012)年に観測された114mmとなっています。



図：平均気温と雨量



図：過去10年間の年間平均気温と年間降水量

(2) 地形と自然

市域の約半分は山地で占められ、その中に金剛生駒紀泉国定公園、府民の森があります。

東部には、交野三山と呼ばれる「交野山」、「旗振山」、「竜王山」の交野山地が、南部には「妙見山」など生駒山地の山々があり、市域の東側と南側を山に囲まれています。

また、平野部には古来、「交野が原」と呼ばれてきた交野台地が北西方向の枚方市域まで広がり、その中央を「天野川」が北流しています。

平野部と山地の境界は明瞭で、山々の姿が交野の景観の中に常に映り込んでいます。

東側の交野山地の山々は、大阪側が隆起して形成されたため、奈良側に比べて急峻な斜面となっていて、屏風のような印象を受けます。特に標高341mの「交野山」は、山頂からの眺望は素晴らしく、大阪、京都を一望することができます。頂上部には花崗岩の巨石が露出し、巨石に梵字が刻まれた「観音岩」は麓からも肉眼で確認することができます。

「旗振山」は標高345mで市内最高峰です。

そのほかの山地の山肌には、花崗岩の巨石が露出している所があります。「旗振山」の南西に位置する「竜王山」は、標高321mです。山頂には竜王石と呼ばれる巨岩やそのほかにも花崗岩の巨石が点在し、八大竜王社が祀られています。

天野川以東の交野山地から派生する丘陵は、東から西へ向かって伸びています。その丘陵の狭間を小河川が流れています。北から、枚方市と交野市との市境付近を流れる「がらと川」、郡津地区と私部地区の境を流れる「免除川」、私部地区の南端を流れる「前川」、森地区と私市地区の境を流れる「小久保川」など、これらの小河川は天野川に注ぎます。一方、天野川より西側の星田地区にある山地斜面は比較的緩やかで、宅地開発が進んでいます。山間部から流れ出す「妙見川」と「星田中川」が天野川に注ぎます。「妙見川」の西側の谷間を流れる「傍示川」だけは北西方向に流れて、寝屋川市域に入り「タチ川」と名前を変えて「寝屋川」に注ぎます。

私市地区と星田地区の狭間を浸食して、断層に沿って北流する「天野川」は、上流部では溪谷を刻み、丘陵から落ち込んだ無数の花崗岩の巨岩や奇岩の合間を流れる溪流や滝が、立体的で美しい景観を見せています。大阪府指定名勝の「磐船峡」です。交野市内で最もよく自然を残しています。

上流で荒々しさを見せた「天野川」も下流部では川幅も広がり、平野部を緩やかに流れる穏やかな川になります。交野の山々、頂上や山肌に露出した花崗岩の巨石、山々から派生する丘陵、その谷間を流れる小河川、深く荒々しい溪谷、平野をゆったりと流れる白砂清流、これらの豊かな自然と地形は、平安時代以降、数々の和歌に詠まれています。



図：地形図

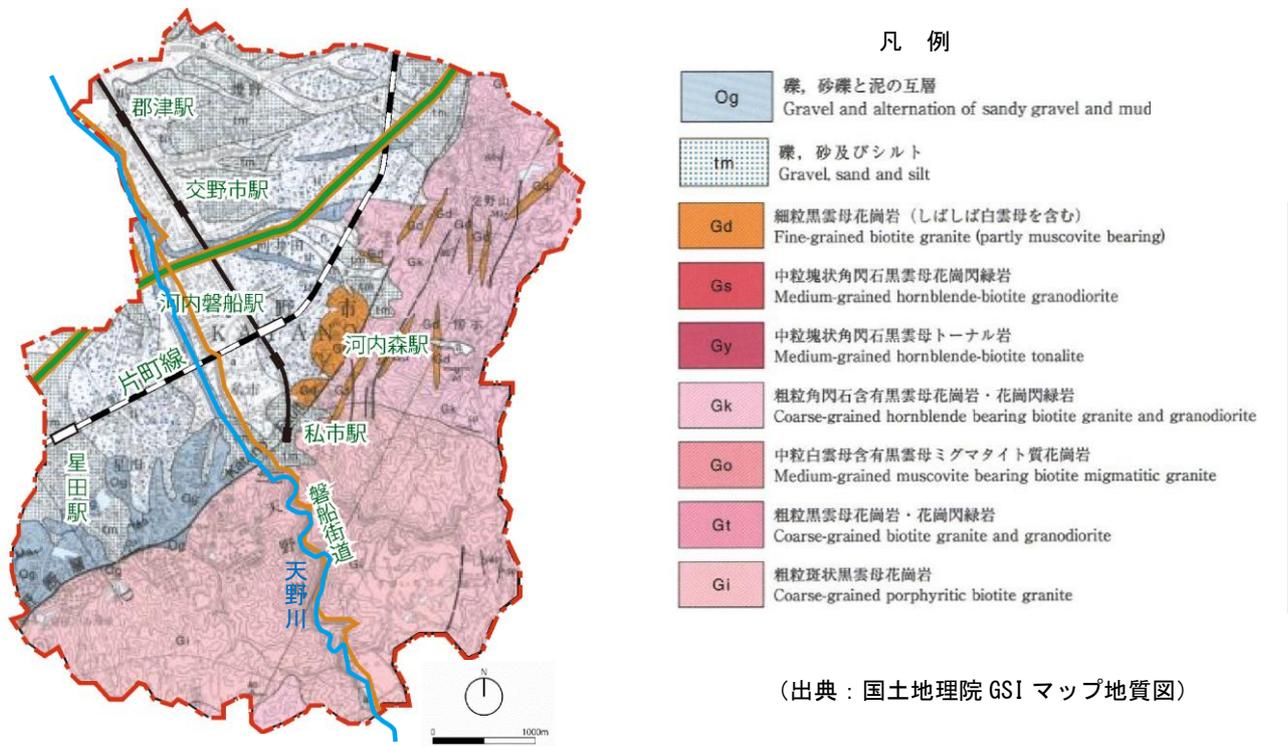
(3) 地質

天野川は生駒山地を侵食して谷地形を刻み、交野市街地を含む幅約 0.5 km、長さ約 1 kmの谷底平野を形成しています。この平野は主に砂質地盤からできています。天野川の河床は、私市付近では台地を侵食した谷底平野を流れていますが、JR 学研都市線（片町線）の鉄橋付近から下流側では河床が高くなり天井川となっています。この川に沿って国道 168 号線、通称「磐船街道」が走ります。

平野部の地質は大阪層群上部堆積層からなり、海成粘土及び砂でできた地盤となっていますが、地質構造は平坦で安定しています。上水道水源の深井戸地質柱状図によれば、地下 20～50mのところどころに砂礫層がみられ、それ以下は砂と粘土の互層になっています。平野部の粘土層の一部に焼き物に適したものがああり、江戸時代の瓦生産などに利用されていました。一方、生駒山地は花崗岩からなり、西斜面は断層に関係して山地内に直線状の谷が平行して発達しています。また、生駒山地に沿って断層の存在が知られています。これらは地殻変動によるものと解せられ、特に構造破碎の影響によって表層花崗岩が真砂土を形成している点が特徴とされます。

市域の山地は生駒山や六甲山と同じく、約 160 万年前から始まった東西方向からのプレートの水平方向の圧力による地殻変動によって隆起して形成されたものとされています。山地には、火成活動区分の第 2 期に区分される交野花崗岩、私市花崗岩、第 4 期の津田花崗岩の分布が見られます。市内にはこれらの花崗岩を使った鳥居や灯籠、石垣、門柱などが多く残ります。また、「交野山」、「竜王山」、「妙見山」の頂上に露出する巨大な花崗岩は信仰の対象となっています。

平野部の中位段丘は、かつての海岸段丘であったとされ、カキ貝を多く含む部分があります。中位段丘より高い段丘層は星田付近に分布しています。高位段丘は高位長尾面と低位長尾面の二段からなり、旧期長尾礫層と新期長尾礫層に分けられます。長尾礫層の特徴の一つは泥層や砂層の一部が赤く変色していることです。



図：地質図

(4) 生態系

①山と人との関わりの歴史

交野市の山地は、弥生時代頃まで森林に覆われていたようです。それが、古墳時代以降の生活材等としての大量の木材利用により次第に森林が少なくなり、平安時代中頃には広い範囲で消失したようです。鎌倉時代成立の『小松寺縁起』にこの寺の周辺は草木一本もない白い岩山だったと記されています。花崗岩質の交野山地の荒廃は土砂災害をもたらしました。中世から近世にかけて、当時は山麓付近にあった私部村と寺村が山崩れで埋まったと伝えられています。

明治時代以降になって治山事業が行われるようになり、里山と呼ばれるような緑豊かな山に再生してきました。人々が山で雑木を切り出し、薪炭や農業資材として活用する中で形成されてきた里山は、市民生活と共生していました。しかし、昭和 30(1955)年代以降の石油やガスなどの普及や生活スタイルの変化に伴い、現在では里山の管理は行き届かなくなっています。このため、竹林の拡大や樹林の過密化が進み、里山の荒廃が目立つようになってきました。

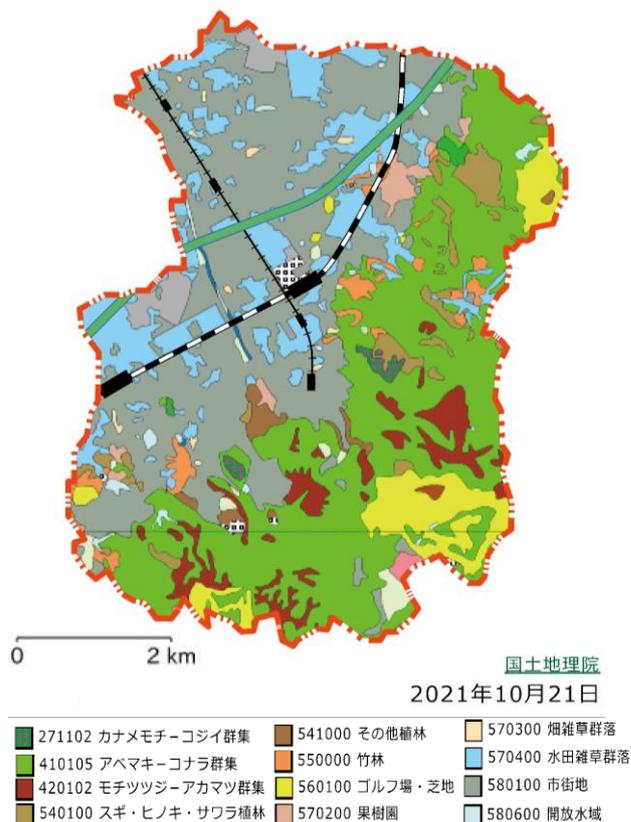
②植物

『交野市緑の基本計画平成 23 年版』では、昭和 54(1979)年の環境庁調査において、「自然植生は源氏の滝周辺にアラカシ群落、獅子窟寺周辺や星田妙見宮の森にシイ・カナメモチ群集等が、わずかにみられます。山地部の多くは、代償植生のモチツツジ・アカマツ群集、ヤブムラサキ・コナラ群集から構成される。一部、竹林の拡大がみられる。」としています。

また、平成 9(1997)年の大阪府の調査では、照葉樹林は大小のシイ林・アラカシ林が数か所に散生しています。スギ、ヒノキの植林地が分布していますが、間伐が行き届かず樹林が密生し、下層の裸地化、タケの侵入、二次林との混在化で、衰退化が進んでいます。二次林は豊富な樹種から成立し、コナラ・クヌギが 10m 以上に成長しています。

その中にヤマザクラ、モチツツジ、コバノミツバツツジ、ヤブムラサキなどの花木類が生育し、美しい里山を形成しています。アカマツは、ほしだ園地に残存する以外はマツ枯れが目立っています。モウソウチク・ハチク・マダケ等の竹林は管理されず、放置され、二次林や植林地へ拡大しています。一部地区では、管理により、竹林の伐採が行われています。平成 11(1999)年から環境省が実施した調査では、山地部の植生はアベマキ・コナラ群集内に、モチツツジ・アカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラの植林地が島状に分布すると報告されています。

交野市は古くから桜の名所であり、室町時代に記された『太平記』にも「片野（交野）の春の桜がり」



(出典：環境省より加工作成)

図：植生図 第 6～7 回 自然環境基礎調査

とあることから、桜が「市の木」に指定されています。また、市域に自生するモチツツジ・コバノミツバツツジの保護・繁殖を目的に、つつじが「市の花」に指定されています。

私市地区にある大阪公立大学附属植物園は約 25.6 万㎡の広大な敷地に、約 450 種類もの多様な植物を植栽し、日本の代表的な 11 種類の樹林型を復元している植物園です。園内にはメタセコイア並木道も整備され、撮影スポットとして親しまれています。

③生物

鳥類は、山林等を背景に比較的多彩で、日本の平均的鳥相がみられます。平成 22(2010)年 6 月現在、181 種類の野鳥が確認されています。

本市では大切な自然を守るとともに、野鳥の保護増殖を図ることを目的に、交野の古歌に詠まれるなど古くから交野にゆかりの深い雉が「市の鳥」に選ばれています。

哺乳類は、山地ではタヌキ、キツネ、テン、アライグマ、イタチ、ウサギ、リス、ネズミ類、モグラ類の生息が確認されています。昆虫類は、貴重種のハッチョウトンボ、ヨツボシトンボ、ムカシヤンマをはじめ日本の一般的な昆虫類が生息しています。

(5) 景観

交野市の景観は、生駒山地、交野山地の山稜と裾野に広がる田園景観や住宅等の市街地景観が、ほどよく共存する自然の豊かさが特徴となっています。

市域の約半分を占める山地部は「交野山」などがある交野山地と生駒山地の急峻な斜面で、平地部からみる眺望は常に緑が豊かであり、山地部にある古墳群も目立つことはなく自然に溶け込んでいます。

「天野川」は、上流部には「磐船峡」などの景勝地があり、下流に至るにつれて人々の生活に調和した歴史的景観となっているところも見られます。

山麓から平地部にかけては、まとまりのある農地が広がり、市域北東部の山麓では果樹栽培、中央部の山麓では田畑と集落・ため池が、山なみと一体となっています。

また、傍示には棚田もみられ、懐かしい交野の歴史的景観を形成しています。その一方で、近年の星田北地区など区画整理事業が進み、大きく景観が変わってきた地区もあります。

平地部では、昔の風情を今に伝える古くからの集落が点在し、街路や町並、社寺・城跡が特徴的な景観



(出典：いきものが暮らす、いきものと暮らす交野 みどりネットワーク事務局)

図：市の野鳥



交野市の景観

を形成し、昭和 40 年代以降に旧集落を中心に市街地が広がっていきます。

「磐船街道」・「東高野街道」・「山根街道」などの街道沿いには、道標や石仏などの石造物が今も多く残っています。

また、交野のシンボルといえる豊かな自然に文化が溶け込んだ景観を将来に伝えるため、昭和 56(1981)年に市民の投票によって「交野八景」が選出されており、今も大切にされています。



図：交野八景位置図

表：交野八景

| ①源氏滝の清涼 <small>げんじのたき</small> | ②交野山の来光 <small>こうのさん</small> | ③かいがけの錦繡 <small>きんしゅう</small> | ④獅子窟の青嵐 <small>ししゅうくつ せいらん</small> |
|---|---|---|---|
| 昔、神宮寺 <small>かみみやうじ</small> に開元寺という寺があり、開元寺の元寺をとって、「元寺の滝」と呼ばれ、また上流の白旗池の白旗が源氏の旗印であることから「源氏の滝」となったといわれています。 | 年に2回、交野山の頂上から来光が見られ、神が宿る山として崇拝されてきました。中世のころには、頂上にある巨岩を仏に見立て、観音菩薩の大梵字を彫り込み、信仰を集めてきました。 | 寺の住吉神社から奈良に抜ける道を「かいがけの道」といいます。昔から大和と河内を結ぶ重要な交通路です。秋が深まるころには落葉で道が埋め尽くされ、すばらしい景色を見せてくれます。 | 私市の天田神社を抜けて、青々とした木々が茂る参道を登って行くと、獅子窟寺にたどり着きます。周辺の木々の青さが印象的です。この寺の名前は、獅子窟で弘法大師が修法したことによります。 |
| ⑤尺治の翠影 <small>しゃくじ すいせい</small> | ⑥天の樟船溪谷の朝霧 <small>あま くすふねけいこく あさぎり</small> | ⑦妙見の観桜 <small>みょうけん かんおう</small> | ⑧星の森の寒月 <small>ほし もり かんげつ</small> |
| 私市駅からくろんど園地向かって登り、月の輪の滝を越え、尺治川のせせらぎの音を聞きながら、川沿いに登っていくと、木漏れ日と木影がコントラストを描いています。 | 天野川が磐船神社の巨岩の間を流れ落ちます。「天の樟船」の名前は、その昔、物部の祖といわれる饒速日命が「天の磐船」に乗り、天から哮が峰に舞い降りたという伝承からつけられました。 | 交野は古くから桜の名所でした。中でも有名なのが妙見の桜で、妙見川沿い 750m にわたって桜が植えられ、桜の季節には、満開の桜が市民の目を楽しませてくれます。 | 弘法大師が、獅子窟寺の岩屋で修行していた折、北斗七星が輝き、星田地区の三か所に八丁(約 880m)の等間隔に星が降ったという伝説が残っています。星の森はその一つです。 |

1-3. 災害履歴

(1) 土地利用と災害

本市では市域の約半分を山地が占めています。平野部においては市街地化されている中、農地や公園等が広く分布しています。しかし、農地は年々宅地化が進み、減少傾向にあります。

さらに、山麓部においては住宅地が多く造成されています。山間部においては土地利用に大きな変化は見られませんが、ゴルフ場造成工事等に伴う切土・盛土による斜面等の人工改変地が分布します。これらの場所は後背地が山間部であり土砂災害発生の危険性が大きい箇所もあり、十分な注意が必要です。

平成22(2010)年3月の第二京阪道路開通による道路交通網の充実は、市域内の人・物資の移動を迅速に行えるようになる効果をもたらしており、防災上有効に働いています。

過去には、天野川沿いの低地部で河川氾濫による水害が発生していましたが、現在に至るまでの河川改修の積み重ねにより、災害の危険性は低下してきたといえます。

しかし、河川改修の進んだ現在においても、水害の危険性が完全に解消されたわけではなく、過去の災害を教訓に更なる防災対策を充実させる必要があります。

(2) 風水害

本市が位置する大阪府への台風の接近は、8月から10月までに集中し、このうち9月が最も多く被害も大きくなっています。

台風の被害は風害と水害とがあります。戦後に大阪府域で大きな被害をもたらしたのは、昭和25(1950)年9月の台風28号(ジェーン台風)と昭和28(1953)年9月の台風13号です。ジェーン台風は大阪府域で死者240人、行方不明者16人、負傷者21,215人、建物全壊9,608戸、同半壊60,708戸、床上浸水54,139戸、床下浸水217,599戸の被害をもたらしました。そのため、大阪府全域に災害救助法が適用されました。台風13号でも、大阪府域で死者21人、行方不明1人、負傷者205人、建物被害23,802戸、床上浸水8,762戸、床下浸水83,124戸などの被害がでました。そのため、同様に災害救助法が適用されています。

近年では、平成30(2018)年の台風21号は、市内においても最大瞬間風速45.9m/sを記録し、建物被害516戸(全て一部損壊)が発生し、倒木や屋根瓦の損傷等の被害が多くみられました。

本市における近年の災害は、時間雨量が概ね20mm以上となった場合に市内に浸水する箇所が生じ、時間雨量が概ね50mm程度になると、浸水箇所が多くなっています。そのため、水路から水があふれる等、建物敷地等への浸水害に注意・警戒を要するのは1時間あたりの雨量が概ね20mm程度からとされ、その雨量が50mm程度以上となる場合は、厳重な警戒と避難体制等の検討が必要と考えられています。

(3) 地震災害

本市において、直下型の巨大地震など、特に大きな人的被害をもたらす地震があったことを伝える、明確な記録や文献資料は残っていません。その一方で、周辺地域では、京都市伏見区を震源とし、文禄5(1596)年にマグニチュード7.5程度と推定される慶長伏見地震が起きています。その際のものと思われる噴砂(地震による液状化現象で噴き上がった砂)の痕跡が、交野市青山の有池遺跡の発掘調査で確認されています。このほかにも、文政13(1830)年のマグニチュード6.5の文政京都地震、明治24(1891)年のマグニチュード8.0の濃尾地震、昭和2(1927)年のマグニチュード7.3の北丹後地震、昭和19(1944)年

のマグニチュード 7.9 の東南海地震などの大地震が起きており、本市の建築物等に何らかの被害を与えたと考えられます。

近年、本市に少なからず影響をもたらした地震としては、平成 7 (1995) 年 1 月の阪神・淡路大震災があります。マグニチュード 7.3 を測り、市内では建物の倒・半壊こそなかったものの、窓ガラスの破損、家具の転倒などが発生しています。このほかに、平成 30 (2018) 年 6 月 18 日に発生した大阪府北部地震は、マグニチュード 6.1 を測り、本市でも震度 5 強を記録しました。建物被害は半壊 1 戸、一部損壊 1,024 戸を数え、屋根瓦の損傷や石灯籠、ブロック塀の損壊が多発し、災害救助法が適用されました。



有池遺跡の噴砂痕跡

(4) 活断層

市域の山地と平野部の境に位置する交野断層は、東北－西南方向に延長約 11 km と、周辺の活断層群でも最も長い部類に属します。

周辺には、本市の西側を南北に走る枚方断層、生駒断層、本市の東南側を南北に走る高船断層群のほか、本市の北方には田口断層が分布しています。いずれも延長 10 km 以下と比較的小規模ですが、市域に近いため、これらの断層に起因する地震が起きた場合には、市域では相当の震度になると考えられます。



図：活断層（出典：交野市ハザードマップ令和 2 年 9 月）

1-4. 歴史的環境

(1) 交野の先史（旧石器時代～古墳時代）

本市域では、およそ 2 万年前の後期旧石器時代に人々が暮らしていた痕跡が認められます。交野山から派生した丘陵上に位置する神宮寺遺跡から昭和 31 (1956) 年にナイフ形石器が出土しました。市域の西部を流れる傍示川右岸の丘陵縁辺に位置する布懸遺跡は、二上山サヌカイト製のナイフ形石器や剥片が出土したことから、石器を作る場所だったとみられています。

縄文時代になると、土器が使われるようになりました。神宮寺遺跡から早期の押型文土器が発掘されており、「神宮寺式土器」と呼ばれ近畿地方の標識土器となっています。そのほか、中期から後期の土器が星田旭遺跡、私部南遺跡からも出土しています。

弥生時代に入ると、稲作が盛んになりました。収穫した米を保存するために、高床式建物がつくられるようになります。高床式建物は湿気を防ぎ、乾燥を保つことに効果があったと考えられます。代表的な遺跡は、坊領遺跡、上の山遺跡、私部南遺跡、私部城遺跡、寺村遺跡、南山遺跡、森遺跡があります。本市における稲作文化の定着は、これらの遺跡でみつかった石包丁や木製品の農具の存在からうかがうことができます。『交野町史』では天野川流域の弥生時代遺跡について、物部氏の祖・饒速日命との関係を指摘しています。

水田遺構は私部南遺跡で発見された弥生時代後期の例が最も古いものです。同遺跡では、前期の竪穴建

物跡も発見され、人々の生活の跡もうかがえます。天野川左岸の上の山遺跡では弥生時代中期の独立棟持柱を有する建物が、坊領遺跡では同時期の方形周溝墓が確認されました。天野川右岸の私部城遺跡で、石器工房と思われる竪穴建物が確認されています。弥生時代後期前半の土器が採集された南山遺跡は、詳細は不明ながらも、立地条件から山地部に営まれた集落（高地性集落）とみられています。森遺跡では、後期後半の土器が出土し、次の古墳時代につながることを示しています。

古墳時代前期の森古墳群は、近畿地方でも最も古い古墳群の1つです。昭和55(1980)年に岩船小学校の児童が、二重口縁壺や埴輪の破片を見つけ届出したことから、分布調査が実施され発見されました。

古墳時代中期には丘陵の縁辺から平野部にかけて交野車塚古墳群があります。鉄製武器・農具を多量に副葬した交野東車塚古墳や、この頃の北河内で最大級の前方後円墳である大畑古墳が含まれます。古墳時代の鉄器生産遺跡である森遺跡との関連が注目されています。

この古墳群の西に広がる森遺跡は、大阪府域でも屈指の鉄器生産の拠点であったことが、発掘調査により明らかとなっています。この遺跡における鉄器生産は、日本列島在来の鍛冶工人と、古墳時代に朝鮮半島から渡来した鍛冶工人によるもので、6世紀には、両系統の技術があわさった鍛冶が行われていました。この頃の鍛冶に関わる遺構・遺物は私部南遺跡などでも検出されています。

古墳時代後期には、丘陵部に円墳からなる倉治古墳群や寺古墳群が出現します。横穴式石室を有する清水谷古墳は崩落の可能性があり、土のうによって石室を保護しています。寺古墳群中の塚穴古墳は市内で墳丘や石室が当時のまま残り、見学可能な唯一の後期古墳です。

古墳時代に市域で連綿と続く古墳群や、その膝元の森遺跡等からは、当時最先端の素材である鉄器の生産を掌握した王の存在がうかがえます。この王がどのような氏族だったか特定することは難しいものの、後世の資料や伝承から物部氏の流れを汲む「肩野物部」の一族が有力候補とみられています。

(2) 交野の古代（飛鳥時代～平安時代）

古代においては、本市全域及び枚方市の大部分・寝屋川市の一部に交野郡が置かれました。郡衛（郡を管理する役所）の所在地は、枚方市域に候補地が求められるほか、本市では地名や地形等から郡津が有力候補となっています。さらに、近年の発掘調査で、奈良時代の官人が身に着ける帯金具が出土した私部南遺跡に官衛的な性格を想定する意見もあります。

郡の地方官である郡司として、守部平麻呂・広道という人物の存在が知られています。平麻呂らの祖先にあたる守部連大隅が、もとは「鍛冶造大隅」と名乗っていたことから、守部氏は鉄器生産に関わる氏族とみられています。このことから、守部氏は、古墳時代の森遺跡で肩野物部氏の下で活躍した鍛冶工人集団の子孫ではないかと推測されています。

この時代になると、郡津地区の郡衛推定地付近の長宝寺跡で白鳳期から奈良時代の古瓦が、森地区の須弥寺遺跡で奈良時代の古瓦が出土し、古代寺院が存在したことがわかります。

平安京に遷都されると、交野郡は、天皇や貴族の狩場として脚光をあびます。桓武天皇や後の天皇が、交野が原で遊猟を楽しんだことが記録にもうかがえます。この頃から、交野の天野川や桜を題材にした平安貴族の和歌が詠まれるようになります。特に、惟喬親王とともに在原業平が交野を訪れた際に七夕伝説をふまえて詠んだ和歌が『古今和歌集』や『伊勢物語』などで広く知られています。これは後に交野で七夕伝説にちなんだ神社や地名などが生まれる背景になったとみられます。

また、平安貴族に親しまれた『交野少将物語』の一部を、鎌倉時代に編纂された『風葉和歌集』が伝

えています。これは在原業平などをモデルとした創作された架空の「交野少将」を主人公とする物語です。その中に、交野郡司の宮道弥益の娘が、交野少将に失恋したことを悲しみ川辺の「長淵」に身を投げたという悲話があります。この地名が現在も郡津地区に残ります。

この時代、弘法大師・空海が開いた和歌山の高野山金剛峯寺と、空海に縁の深い平安京の東寺を結ぶ高野街道が整備されました。市域にはそのうちの一つ東高野街道が通り、多くの弘法伝説を伝える信仰の道となりました。また、この街道を足しげく通った僧明遍が、休息のため郡津に作った小庵が明遍寺の前身になったとされます。

平安時代中頃以降、全国各地で荘園が広まり、市域では石清水八幡宮の荘園である三宅山庄園、興福寺別院円成院の荘園である星田庄（別称：星田牧）が置かれ、平安時代終わり頃に枚方市南部地域も含んだ石清水八幡宮荘園の大交野庄も作られました。荘園の境界を自然の地物を利用して明示したなごりが、現在の奈良県との境に位置する「傍示」や、星田地区を流れる「傍示川」等の地名に見られます。

石清水八幡宮の荘園が設置されたことによりつながりが深く、森村の名の起こりは、荘園の役人であった森宮内少輔にちなんだものとされます。平安時代中期にはじまる石清水八幡宮放生会には、交野の人々が神人（神社へ奉仕する人）として参加してきました。「放生会」は、捕えた魚や鳥を放して善い行いによって、地震や疫病などの災いを免れようとする神事です。この祭礼を描いた市指定文化財「石清水八幡宮放生会絵巻」が森地区で保存されています。後に「石清水祭」と名前を変え、現在も毎年9月15日に行われており、森地区から火長神人、私市地区から御前弘神人が参列する伝統が続いています。

平安時代には、それまでも信仰を集めてきた山中の巨岩の周囲に、社寺の建立が始まります。私市の山中にある獅子石屋に獅子窟寺、磐船峡内の天の磐船をご神体とする磐船神社、竜王山山頂の竜王石に八大竜王社、交野山の観音岩に岩倉開元寺（神尾寺）、星田妙見山上の織女石に小松神社（星田妙見宮）が建立されます。いずれも詳細な創建時期は不明ですが、中世以降も存続しました。特に獅子窟寺は、戦国期の混乱を経て現在まで続く数少ない山岳寺院です。このほかに、小松景光を弔う秦姉子が建てた荒山寺から名を変えたと伝わる小松寺など、集落から離れた山地に寺院が建立されました。獅子窟寺の薬師如来坐像（国宝）、麩千手寺の聖観音立像（市指定文化財）、小松寺から星田寺へと移された十一面観音立像（市指定文化財）は平安時代の仏像で、山岳寺院にもたらされたものです。

（3）交野の中世（鎌倉時代～安土桃山時代）

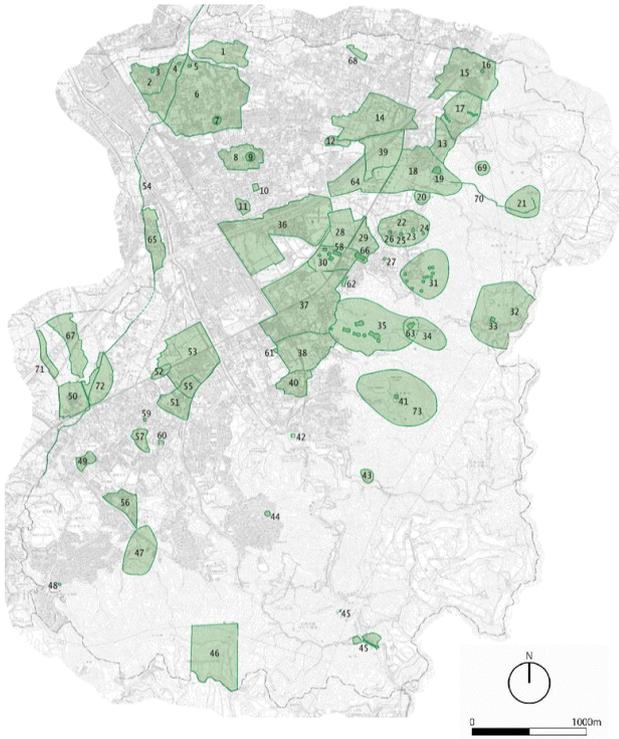
鎌倉時代に入ると、武士や農民を中心に広まった浄土宗などの新たな仏教が市域でも定着していきました。後に市域で流行する融通念仏宗については、その念仏踊りの発祥が枚方市との市境の私部の上の山周辺だとする言い伝えが残ります。

その一方で山岳寺院も引き続き信仰を集めており、この頃に亀山上皇が病氣治癒の祈願のため獅子窟寺を行幸し、快復したと伝えられています。行幸中、亀山上皇が滞在した土地は寄進され、千手寺が建てられたと伝えられます。

また、この時代に成立した『諸山縁起』に、葛城山北峯の宿として磐船・師子石屋・金剛寺・甲尾が伝えられており、修験の地にもなっていたことがわかります。この頃の文化財としては、奈良県との境に位置する傍示地区の八葉蓮華寺にて保存される、奈良仏師・快慶が若い頃に制作した阿弥陀如来立像や、麩千手寺の如意輪観音坐像が伝えられています。



阿弥陀如来立像
（八葉蓮華寺）



| | | | |
|--------------|----------------------|------------------------|----------------------------|
| 1 郡津渡り遺跡 | 21 岩倉開元寺跡 | 41 獅子窟寺(国指定・薬師如来坐像) | 61 魔千手寺(市指定・聖観音立像・如意輪観音坐像) |
| 2 ハセゾ遺跡 | 22 寺村北遺跡 | 42 私市惣墓石造地蔵菩薩立像(府・重美) | 62 須弥寺遺跡 |
| 3 郡津丸山古墳 | 23 大谷北窯跡 | 43 私市滝が広遺跡 | 63 鍋塚古墳 |
| 4 郡津大塚 | 24 大谷窯跡 | 44 妙見山古墳 | 64 上私部遺跡 |
| 5 郡津梅塚 | 25 やぶ古墳 | 45 磐船峽(府・名勝) | 65 上の山遺跡 |
| 6 交野郡衙跡 | 26 京の山古墳 | 46 小松寺跡 | 66 大畑古墳 |
| 7 長宝寺跡 | 27 山添家住宅(重文) | 47 星田旭遺跡 | 67 平地遺跡 |
| 8 私部城跡 | 28 今井遺跡 | 48 長谷古墳 | 68 北代遺跡 |
| 9 私部城遺跡 | 29 寺村遺跡 | 49 布懸遺跡 | 69 交野山石切場跡 |
| 10 北田家住宅(重文) | 30 交野車塚古墳群 | 50 星田駅北遺跡 | 70 岩倉開元寺参道跡 |
| 11 でがしろ遺跡 | 31 寺古墳群 | 51 外殿垣内遺跡 | 71 堀之内遺跡 |
| 12 焼垣内遺跡 | 32 傍示遺跡(金剛寺跡) | 52 門ノ木遺跡 | 72 四馬塚遺跡 |
| 13 安養寺跡 | 33 八葉蓮華寺(重文・阿弥陀如来立像) | 53 坊領遺跡 | 73 獅子窟寺遺跡 |
| 14 倉治遺跡 | 34 南山遺跡 | 54 東高野街道 | |
| 15 東倉治遺跡 | 35 森古墳群 | 55 そのむら遺跡 | |
| 16 清水谷古墳 | 36 私部南遺跡 | 56 星の森遺跡 | |
| 17 倉治古墳群 | 37 森遺跡 | 57 新宮山遺跡 | |
| 18 神宮寺遺跡 | 38 天田神社遺跡 | 58 交野東車塚古墳(府指定) | |
| 19 開元寺跡 | 39 有池遺跡 | 59 薬師寺(市指定・薬師如来立像・千体仏) | |
| 20 尾上遺跡 | 40 馬場遺跡 | 60 星田寺(市指定・十一面観音立像) | |

図：遺跡等分布状況（旧石器時代～江戸時代）

室町時代に入ると、足利氏^{あしかがし}によって幕府が開かれ、政治・文化の中心が鎌倉から京都に再び戻りました。三代將軍の足利義満は、国ごとに守護（大名）を置き各地を治めました。市域は河内国守護の畠山氏に支配されました。この時代に、私部地区の臨濟宗寺院・光通寺^{こうつうじ}は、4代將軍の足利義持の祈願所とされ、後土御門天皇により勅願寺ともされたことにより、幕府・朝廷と強いつながりを持ちました。それまで交野で絶大な権力を誇った石清水八幡宮とも土地の争いを起こしています。



光通寺

なお、茶の湯や生け花など、現代にも伝わる伝統文化が盛んになったこの時代に、光通寺が朝廷へ茶葉を献上していたことが、同寺所蔵の「女房奉書」^{にようぼうしよ}などによって伝わっています。当時から宇治茶が有名でしたが、光通寺の茶葉も一種の特産品となっていたようで、室町時代後期から江戸時代初期まで献上が続きました。

応仁の乱^{おうにん}(1467～1477)年を契機に、様々な争いが各地で起こるようになりました。この頃、星田地区の平井正道という人物が、四條畷市・大東市にあった飯盛城^{いひもりじょう}をめぐる三好長慶^{みよしながよし}と安見宗房^{やすみむねふさ}の戦に安見方として参加したと伝わっています。傍示地区には、兵庫県の伊丹城の伊丹一族が戦乱から落ち延びたと伝承されています。交野の人々も戦乱の世に巻き込まれていたことがうかがえます。三好長慶による短い治世の後、畠山家家臣の安見右近^{やすみうこん}が登場しました。安見右近は、星田地区を拠点にして活動しました。その後、奈良へ抜ける磐船街道やかいがけの道と、京都へ通じる東高野街道の交差する交通の要衝をおさえる私部城（交野城）を構えました。私部城の安見氏は、京都へ進出した織田信長に味方し活躍しましたが、本能寺の変以後は市域の歴史から姿を消します。その後、片桐家・市橋家など豊臣家臣によって市域は支配されました。

(4) 交野の近世（江戸時代）

豊臣秀吉の死後、豊臣家と徳川家の決戦となった慶長 20（1615）年の大坂夏の陣では、大坂城の軍勢が放った火により、獅子窟寺などの山岳寺院が焼失したと伝わります。徳川方に味方した武将・市橋長勝^{いちしながかつ}は、自らの領地の星田を防衛し、徳川家康の大坂城攻めの準備を整えました。家康は、無事に星田に入ると、武家の神である八幡神を祭る新宮山^{しんぐうやま}に陣を置きました。そして、村の長の平井家に一晚宿営し、戦況を見極め決戦の地である大坂城へ出陣し、勝利しました。長勝の子孫の長昭^{ながあき}は、家康を顕彰する「神祖宮趾之碑」^{しんそぐいしのひ}を建立し、現在も市指定文化財として宿营地跡で保存されています。

江戸時代の交野には8つの村（星田・傍示・寺・森・郡津・倉治・私市・私部）が置かれ、さらに各村内が分割された領地ごとを代官^{だいかん}や庄屋^{しょうや}が管理しました。このうち、私部村は西株（約 1,077 石）と東株（約 508 石）に分かれておさめられており、西株の代官・庄屋をつとめた北田家により建築された「北田家住宅」は当時の豪壮な代官屋敷の姿を良好に残しています。寺村の庄屋の山添平精^{やまぞえへいせい}が宝永 2（1705）年に建てた「山添家住宅」は茅葺屋根の庄屋の屋敷構えをよく残しています。このほかにも、江戸時代以来の8か村の中心部では、当時の町並みや社寺が良好に残されています。

当時の村の産業では、主要な商品作物として菜種がありました。現在、菜種は主に食用油の原料とされますが、当時は灯用の油とするために重宝されました。さらに菜種は麦と共に水田裏作で栽培できる上に、油の搾りかすも肥料として活用できるなど農民にとって重要な作物でした。

江戸時代の河内国（大阪府東部）では木綿の栽培から手紡ぎ・手織りによる綿布の生産までが盛んに行われ、これが「河内木綿」^{かわちもめん}として広く知られていました。市域で木綿の生産量が突出していたのが星田村で、ここで生産される縞模様を織り出した綿布「星田縞」^{ほしだしま}が有名でした。次いで多かったのは郡津村で、田の等級も綿で決められました。こうした木綿生産は、明治時代以後の洋綿の普及により市域では途絶えましたが、高機・下機をはじめとした機織り道具とわずかながら当時の綿布が市に寄贈され残されました。これを元に本市で「河内木綿」の復元作業を進めています。

交野山地の伏流水を活かした酒造りも盛んでした。森村の大門酒造^{だいまん}のほか、江戸時代末期に私部村に移ってきた山野酒造の2社が現在も酒造業を続けています。交野は、北河内で酒造会社が維持されている唯一の市となっています。なお、山野家の住宅や長屋門、酒蔵などは、国登録文化財となっており、近世の名残を残す酒造屋敷として貴重な例となっています。

江戸時代後期からは、各村で瓦屋も営まれました。刻印により地元産であることが確認できる江戸時代の瓦を、現在も市内で見ることができます。さらに、その一部は遠隔地にも供給されています。私部村の瓦屋からは、京都の西本願寺に寄進されたものがあるほか、私部村東株の領主であった大久保氏居城の神奈川県小田原城にも瓦が送られました。市橋家領の星田村の瓦屋は、仁正寺藩（現・滋賀県日野町）の市橋家菩提寺^{ぼだいじ}の清源寺に鬼瓦などを供給しています。瓦生産が盛んになった背景には、瓦に適した粘土が市域で採取されることが大きいと思われます。「げんべのかまたき」という瓦屋の唄が子どもに歌われるなど地元で親しまれ、瓦造りは昭和時代初期まで続きました。

江戸時代の人々の生活においては、大阪府内や周辺地域、遠くは愛媛県や佐賀県などから運ばれた陶磁器の茶碗や皿が食事等に用いられました。市内の村々を発掘すると、たくさんの陶磁器が見つかります。このほかにも各地の焼き物が交野でもみつけられます。

私市地区の「吉向松月窯」^{きっこうしょうげつがま}は、京焼の流れを汲む窯元です。摂津国西成郡中津川新田^{まつづ にしなり なかつがわしんでん}（現在の大阪市よどがわ^{よどがわ} じゅうそう^{じゅうそう} 淀川区十三付近）で窯を開いた吉向窯から分かれ、明治時代以降に移転を重ねる中で、「正倉院文書」に

記載された交野の陶土を求めて昭和 55（1980）年に私市地区に窯を移しました。

江戸時代、村の神社を中心に夏祭では「河内音頭」が踊られ、秋祭では「だんじり」が曳行されました。当時から祭に用いられた「だんじり」が私部、星田などで現在も残されています。盆踊りに欠かせなかった「河内音頭」は、後に中・南河内でも踊られた「河内音頭」と区別し、交野独特の音頭として「交野節」と呼ばれるようになりました。江州音頭が流行する中で市内では下火になったものの、現在も「私市おどり」として伝えられているほか、星田村の交野節を他市の団体が保存しています。

星田村の新宮山にあった愛染律院には、幕末の著名な尼僧である大田垣蓮月が一時期居住し、和歌を残しています。また、河内相撲から江戸相撲に出世した大井川万吉という郷土力士を星田村から輩出しており、地元の道標にその名が刻まれ現在に伝えられています。そのほか、星田村の市橋家領出身の吉田屋藤七は、山々の砂防による河川の治水・防災策を大坂町奉行所に建言しました。この策は実行されることはありませんでしたが、後の明治時代にヨハネス・デ・レーケにより進められた淀川治水に通じる部分があり、先見の明に満ちた人物でした。

（5）交野の近代（明治時代～大正時代）

明治維新後、市域は河内県から堺県へと管轄が代わり、明治 14（1881）年に大阪府管下となりました。

明治 21（1888）年 4 月 25 日、市町村制が公布されました。これを受けて私部、倉治、郡津の 3 か村は交野村に、傍示、森、寺、私市の 4 か村は磐船村に、星田はそのまま星田村に移行しました。

それぞれの村の有権者によって選挙が行われ、村会議員を選出して、村の予算などを審議するようになります。また、村会議員の推薦によって村長が任命されました。これにより、近代的な村の制度が整いました。

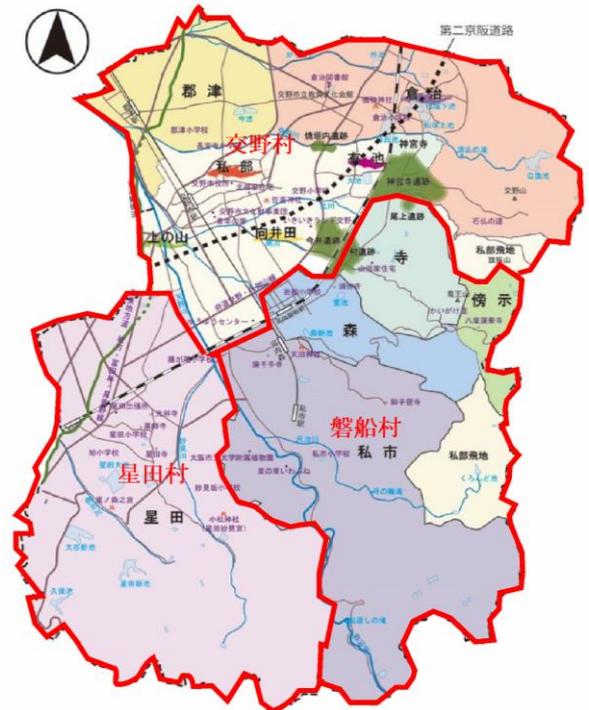
学校制度については、明治 5（1872）年の学制頒布によって、私部村の無量光寺と星田村の慈光寺の本堂を仮校舎として初めて学校が開かれました。当初は寺を間借りしたものでしたが、次第に村ごとで校舎の設置が進みました。

明治 18（1885）年には、現在の枚方市域の一部も含む 15 か村の組合によって先進的な設備を備えた交南小学校が設置されました。その後も教育制度の変化とともに、小学校は統廃合と移転を繰り返しました。

明治時代から大正時代には、市域で新たな産業が興り、近代化がすすめられました。

私部村では、生糸の製造を行っていた原田元治郎が「原田式織機」を発明し、明治 35（1902）年に原田式織機製造所を開きました。原田式織機は改良を重ねる中で輸出も行うようになり、大きなシェアを占めるようになりました。

倉治村出身の金澤泰治は、交野村役場の出納役を経て、金融の重要性を認識し、大正 3（1914）年に交野無尽金融合資会社を設立し、後にこれを株式会社にしました。同社は、大阪府下の金融業の発展に寄与し、現在の関西みらい銀行のルーツの一つとなっています。昭和 4（1929）年に竣工した本社屋は、後に交野町



図：旧 3 か村の区域図

へ寄贈され、役場・文化施設として交野町、そして交野市民に親しまれることになりました。現在は交野市立教育文化会館として、歴史民俗資料の展示に活用されています。

このほかに、大正4(1915)年に埜辺 丑治郎が星田村ではじめた埜辺刷子工業は、生産した歯ブラシを主にアメリカなどの海外へ輸出しました。戦争中に生産を中断しましたが、戦後に再開して現在も続いています。

また、傍示の伊丹富太郎は私財を投げうって大正2(1913)年頃より森から傍示に続く道路の開設に尽力しました。この道路は現在も市道として引き継がれています。

私市の西村忠逸は、大正12(1923)年10月の台風で生じた河川氾濫によって大きな被害を受けた私市地区等の水田復興のため、同年12月から加賀田用水を整備し、昭和10(1935)年に完成させました。

市内で近代産業が発達するとともに、鉄道輸送も重要となり、明治31(1898)年に関西鉄道が大阪の片町から名古屋間の全線を、昭和4(1929)年に信貴生駒電鉄が私市から枚方東口間を開通させました。関西鉄道は現在のJR学研都市線(片町線)に、信貴生駒電鉄は現在の京阪電気鉄道交野線に引き継がれており、現代の重要な交通機関の基礎となりました。

(6) 交野の現代(昭和時代～)

昭和14(1939)年、交野村と磐船村が合併し、交野町となりました。終戦後の昭和22(1947)年には学制改革により、交野国民学校は交野町立小学校、星田国民小学校は星田村立小学校となります。同年には交野町と星田村共同のもと交野町立中学校が設立されました。

ついで昭和30(1955)年、町村合併促進法により交野町と星田村が合併して現在の交野市の前身である新たな交野町が誕生しました。昭和30年代後半からの経済成長に伴い、大阪市内で働く人が多くなり、交野町の人口も急速に増えていきました。

交野町は行政能力の強化を図るために市制を施行し、昭和46(1971)年に交野市が誕生しました。

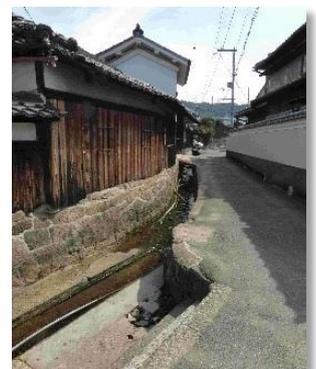
人口の急増によって新たに小学校と中学校が必要となり、交野市立の小学校は10校、中学校は4校まで増えました。

交野市は、令和3(2021)年に市制施行50周年を迎えています。近年は小中一貫校への移行を進めており、令和4(2022)年には小学校2校が統合され、9校となっています。

今日に我々がみる交野市の町並みの特色として、近年増加しつつある新規の住宅地とともに、江戸時代から続く伝統的なたたずまいが継承された、昔ながらの趣を残す集落が共存していることがあげられます。

古くからの町並みでは、長屋門や土蔵、伝統的な厨子二階の主屋が今もなお多く残り、板壁、窓の格子や瓦葺きなどに伝統的な要素を目にすることができます。主屋が建て替わった敷地でも、往時からの門構えは残されているものがあり、集落に住む人の町並みの継承への意識を垣間見ることができます。植栽や家木は大きく育ち、集落が経てきた年月を感じさせる要素となっています。

また、山麓の集落では坂道が多く、各敷地には石積みが多く見られ、これに塀が組み合わされて特徴的な家並みが形成されています。長い年月を経たこれらの町並みには、住民どうしのつながりの中でまとまりのある落ち着いた景観が息づいています。



二平川の洗場周辺の町並み(倉治地区)